

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	全国の糖尿病・内分泌科医のお手本とされる診療科を目指して
別タイトル	Department Introduction
作成者（著者）	弘世, 貴久
公開者	東邦大学医学会
発行日	2024.06.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 71(2). p.122-123.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	教室(診療科)紹介
著者版フラグ	publisher
JaLCOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2023_066
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD91807155

教室(診療科)紹介(146)

全国の糖尿病・内分泌科医の お手本とされる診療科を目指して

医学部内科学講座 糖尿病・代謝・
内分泌学分野/大森病院糖尿病・
代謝・内分泌センター

教授・センター長：弘世貴久
准教授：内野 泰
講師：吉川芙久美
医局長・院内講師：佐藤源紀

当科の歴史は大森病院の他の診療科と同様、組織改編が行われた2003年(平成15年)6月に遡ります。改編によりスタートした当科の前身は旧第一内科の内分泌グループと旧第二内科の内分泌グループでした。当時のそれぞれ責

任者は第一内科が宮地幸隆教授、第二内科は井口利樹教授が務めておられました。改編の直前に不幸にも宮地幸隆教授がお亡くなりになり、新しい教室の初代主任教授・センター長は井口利樹教授が就任されました。

井口教授はその1年後に退任、2004年7月より当時臨床検査科教授であった芳野原教授が2代目の主任教授・センター長に就任されました。芳野教授は特に脂質の診療・研究を専門とされ、また、糖尿病学でそれまで耐糖能、インスリン分泌能を測るために行われていた経口ブドウ糖負荷試験より、より実質的に普段の食事に対する耐糖能やインスリン分泌能を観ることが出来る標準食負荷試験を確立され、後に日本糖尿病学会より表彰を受けられました。2012年(平成24年)3月に退任され同年4月私、弘世貴久が主任教授・センター長を拝命し、現在に至ります。私が就任するまでの当科は旧第一、第二内科の流れで内分泌グループ(主に甲状腺、副腎に注力)と糖尿病・脂質グループに分かれた診療・研究を行っていましたが、私の就任後は医局員のだれもが二つの領域を専門的に診療できる診療科を目指してグループ制を廃することとしました。当初は科内だけでなく、他の診療科からもこのことは期待と戸惑いで受け入れられましたが、どうにか多くの諸先生からのご協力もいただきその方向性に恙なく向かっていけると実感しています。当科のモットーは東邦大学が掲げる「良き臨床医」の育成という目標に基づき、基本的な内科診療はもちろんのこと、糖尿病・内分泌科の専門施設として全国



の医師・医療施設のお手本になるような診療を実施，その上で発信もしていくことを推し進めてきました．具体的には臨床シーンを常に思い描いて立案・計画・実施してきた臨床テーマを教室員の学位取得の研究として数多く行い，研究結果は全てインパクトファクターのある英文誌に発表してきました．これらの結果は更に私の単著，あるいは教室員のみで執筆した書籍として発刊し，全国の研修医や若い専門医を目指す先生方の座右の銘になるものもあると自負しています（末尾：書籍紹介参照）．お陰様で医者が勤める専門病院や名医ランキングなどといった書籍で当科・当科医師が上位に取り上げられ，また，東邦大学はもちろんのこと全国の国公私立大学の医学部の卒業生が多く入局しています．これらの背景は学生や研修医の教育に大きく生かされていることは言うまでもありません．よりよい教室の発展を目指して更に教室員一同頑張っております．今後ともご指導ご鞭撻よろしく願いいたします．

書籍の一部

弘世貴久著（単著）もう迷わない！外来インスリン療法マスターブック 初版2013年 改訂2版2024年 南江堂

弘世貴久著（単著）教科書やガイドラインではわからない！糖尿病薬物療法の裏ワザ・豆知識 2020年 南江堂

弘世貴久編著（教室員のみによる共同執筆）必ずうまくいく！入院インスリン治療マスターブック 2016年 南江堂

弘世貴久編著（教室員のみによる共同執筆）GLP-1受容体作動薬，宝の持ち腐れにしないための本 2019年 フジメディカル出版

弘世貴久監修，内野泰，吉川芙久美編集（教室員のみによる共同執筆）まずはこうする！次の一手はこれだ！糖尿病治療薬最新メソッド第4版 2023年 日本医事新報社

（弘世貴久）

DOI：10.14994/tohoigaku.2023-066